

取組事例の名称	浅海域および閉鎖水域の深浅測量
<p>3. 工事等の実施に当たっての課題や留意した事項、苦労した事柄・教訓</p> <p>ラジコンボートの制御は無線LANを用いて行っており、無線LANの通信が途切れた場合、電源投入位置に戻る機能(自動帰還)があるため消波ブロックの近くで途切れた場合にブロック内に挟まれることがあった。</p>	
<p>4. 実施後の成果に対する発注者や地元住民等の評価</p> <p>現場での対応(少人数でかつクレーン等大掛かりな段取りを必要としない点)および成果に対しては発注者には満足いただけたとと思う。</p>	
<p>5. 採用した技術に対する改善点、望まれる技術</p> <p>無線LANが途切れた場合、自動帰還せずにその場に留まって欲しい。 測線や測量ポイント登録の更なる簡便化。</p>	
<p>6. 今回の取組を通じ、将来の災害対応の為に準備すべきと感じた事項</p> <p>災害時に深浅測量など現状確認は必須である。今回は単素子による”線”の測量であったが、ナローマルチビーム測深ソナーによる”面”の測量も勘弁に(小人数で)できる装置があれば更に役立つと感じた。</p>	
NETIS登録	